

平成 29 年度事業報告

社会福祉法人宝山寺福祉事業団

法人本部

平成 29 年 4 月 1 日に施行された社会福祉法人制度改革を受け、新たに定款その他の基本規定を改正し、新体制で法人運営がスタートした。法律の規定に基づき理事、評議員の一部の方々に任免の異動があった。理事についてはこれまで 7 名の定数であったところを 9 名とし、理事長を含め 6 名を施設長等のいわゆる内部理事として常勤的に法人運営に関与できる体制に整えた。また理事長の他に業務執行理事として副理事長 1 名を置いて理事長を日常的に補佐することとした。評議員についても法の規定に準拠して、これまでの諮問機関としての位置付けから法人運営の事後的決議機関としての定時評議員会を構成する第三者的な立場の方々に就任していただくことになり、その定数も 10 名以上 13 名以内とすることにした。もっとも大きな組織の変更は、会計監査人を置くことを法的に義務付けられたことである。監査法人彌榮会計社を会計監査人として任命し、その業務を開始していただいた。これらのことにより、29 年度は本法人にとってある意味では法人運営の基本となるガバナンスの大きな見直しをもとめられ、そのことをスタートさせた年であったと言える。

1. 法人の概況

定款に定める社会福祉事業として児童養護施設愛染寮をはじめ第一種社会福祉事業 8 施設、極楽坊保育園をはじめとする第二種社会福祉事業 29 の事業を実施している、また公益事業として生駒市梅寿荘地域包括支援センターをはじめとする 6 の公益事業を標榜しておりこの中には福祉の増進を目的とする基金運営事業としての福祉基金、ひめゆり基金も含まれている。

実施している事業のうち七町広域組合の設置によるあくなみ苑、生駒市デイセンター寿楽、デイセンター憩の家、奈良市児童発達支援事業いっほの三事業はそれぞれ所管の行政庁からの指定管理であり、生駒市梅寿荘地域包括支援センター、奈良県発達障害支援センターでいあーは行政からの事業委託である。

なお、いこま保育園は平成 29 年 4 月 1 日を期して幼保連携型認定こども園「いこまこども園」に移行した。

(1) 法律顧問等の状況については、法律顧問を山本純弥弁護士、人事・労務管理等の顧問に社会保険労務士法人フォーシーズン堀内洋典社会保険労務士を委嘱している。財務・会計等の顧問については税理士法人谷野会計事務所に適宜に適切なアドバイスと対応をお願いしている。

(2) 職員の状況 (平成 30 年 3 月 31 日現在)

職員の総数は、正規職員 348 名、常勤契約職員 87 名、パート 294 名、その他 1 名の合計 730 名となっている。

児童部門：正規職員 194 名、常勤契約職員 32 名、パート 90 名、その他 1 名。
計 317 名

高齢部門：正規職員 154 名、常勤契約職員 55 名、パート 204 名。計 413 名

(3) 施設長等幹部職員の状況

<30 年 3 月 31 日付退職>

* あくなみ苑施設長高田裕之氏

* あすかの保育園園長岩本登美子氏

* 児童発達支援センターあすなろセンター長大西清司氏

<30 年 4 月 1 日付就任>

* あくなみ苑総合施設長田中将史氏

* あすかの保育園園長小林美香氏

* 児童発達支援センターあすなろセンター長西野敦氏

* いこまこども園副園長西浦正翁氏

* 梅寿荘事務長東口謙氏

2. 役員会等の開催

- 6 / 5 監事監査 (5 / 10,11 税理士法人谷野会計事務所による外部監査)
- 6 / 5 法人監事と会計監査人彌榮会計社との意見交換会
- 6 / 5 理事会 (事業報告、決算の承認、定款変更、経理規程その他諸規定の改正、理事・監事候補者の推薦、会計監査人の選定、その他)
- 6 / 19 定時評議員会 (事業報告・決算の承認議決、理事・監事の選任議決、会計監査人の選定・報酬議決、役員並びに評議員の報酬の基準及び報酬規程の承認議決、定款変更申請承認議決その他)
- 6 / 19 新理事会 (理事長の選任、業務執行理事の選任、諸規定の変更等)
- 11 / 21 理事会 (上半期事業進捗報告、第一次補正予算の承認、諸規定の改正、理事長等の業務執行状況報告等)
- 3 / 22 理事会 (第二次補正予算の承認、30 年度事業計画、当初予算案の承認、施設長人事案件の承認、定款変更申請案の承認、諸規定の改正、理事長等の業務執行状況報告、永年勤続表彰等)

3. 法人本部の体制等

理事長並びに副理事長 (総務) 企画、庶務、財務、人事・研修の 5 部長による本部会議は原則月一回開催することとして、計 13 回実施した。

理事長並びに各施設長による幹部会議（月曜会）は計 36 回実施し課題と情報の共有化を図った。部門特有の課題の検討のため児童、高齢それぞれの部門会議は計 11 回開催した。

（１）苦情等対応第三者委員会

3月12日に年間を通じた各施設の苦情対応に関する報告と検討の委員会を開催。谷口誠委員長他委員4名、理事長、各部長が出席。梅寿荘、地域包括支援センター、極楽坊保育園各施設長から代表して苦情の受付と対応状況を説明。適切に対応できているとの講評を得た。

（２）職員の人事案件等について

理事長、副理事長が各施設の個別の運営状況の把握と職員の配置計画等の検討のために各設長から人事等のヒアリング（1/22,23,24,25）を行い、必要な検討を行った。

4.研修会等の開催

法人本部並びに研修委員会の企画運営による法人独自の研修会は、施設長及び事務職員を対象とした経理研修（4/12,10/18）の他、恒例の年頭幹部連絡会（1/20）を開催、各施設長並びに幹部職員を対象に「先人に学ぶ」～福祉の実践者たち～をテーマに、理事長が創設者故辻村泰圓の遺稿をもとに講話を行い研鑽を深めた。また研修委員会として下記の研修を実施し、職員の資質向上に努めた。

<階層別研修>

ステップアップ研修（7月5日）

テーマ：「アセスメントの基礎」

対象：初級～中級 参加者数 17 名

リーダー研修（9月7日、10月18日、11月28日）

テーマ：「仏教と福祉」西大寺参拝・大茶盛体験。「チーム・組織論」、「苦情解決の基礎」、「チームビルディングワールドカフェ」

対象：リーダー職を目指す職員 参加者数 26 名

新採用職員研修（平成30年3月28日・29日）

テーマ：「コンプライアンス」、「リスクの理解」、「理解力・伝達力」、「接遇・マナー」

対象：新採用職員 参加者数正規職員 45 名 契約職員 8 名

<テーマ別研修>

研究発表会ポスター発表（平成 30 年 1 月 28 日）

発表数：18 発表（事前に発表内容、発表方法等を委員会で検討、研修を実施）

内定者研修（平成 30 年 2 月 23 日）

テーマ：「社会人になるにあたって」、「SNS の利用について」

対象：平成 30 年度採用内定者 参加者数 17 名

衛生管理研修会（6 月 2 日）

会場：梅寿荘研修室

テーマ：「食品の表示と衛生管理について」

講師：吉田豊次先生

対象：給食関係職員他 参加者数 42 名

調理実習研修会（11 月 11 日）

会場：梅寿荘研修室

テーマ：「予防医学の食育 アレルギー初級講座」

講師：牧 香奈子先生

対象：給食関係職員 参加者数 25 名

栄養士研修会（2 月 23 日）

会場：誠すし

テーマ：「今年度の振り返りと次年度の取り組みについて」

対象：栄養士 参加者数 12 名

その他、年度初め（4/1,2,5,6,7,13）には理事長がすべての施設に出向いて法人の事業方針を説明し重要課題等について必要な訓示を行った。

<第 21 回法人研究発表会（1 月 28 日）せせらぎホール>

「私たちの介護」～今とこれから～をテーマに生駒市南コミュニティセンターせせらぎにおいて高齢者部門 3 施設（梅寿荘、延寿、あくなみ苑）が発表。種智院大学人文学部長佐伯俊源教授に講評をいただいた。記念講演では「らくらく体操から 17 年」と題して健康運動士大谷恵子先生に講演をいただいた。またロビーでは 18 のポスターセッションがあり多くの質疑や意見交換がなされていた。

5.いこま乳児院創設 50 周年記念キャンプ

8 月 26 日～27 日、昭和 42 年 10 月に開設されたいこま乳児院の創設 50 周年を記

念し、職員乳幼児全員が仔鹿園での合宿保育を実施。県とも協議のうえ周到な準備を経ていわば院全体が引越する状況で50周年をお祝いした。夕方からはプラザで来賓の方々と共に和やかな記念パーティーが開催され、お泊り保育の赤ちゃんも職員もお客様もみんなが楽しんだ記念のキャンプになった。

6．奈良仔鹿園創立40周年記念式典を開催

昭和52年に創設された奈良仔鹿園の40周年を祝して、恒例の「こじかの広場」の行事に合わせ、2月12日仔鹿園プラザにおいて記念式典を開催した。

ドローンによる空撮を交えた奈良仔鹿園のあゆみのスライド上映などを披露した。

7．国際交流

法人に事務局を置いている日本スリランカ仏教福祉協会の支援先であるスリランカネセック財団との情報交換や交流を深めるとともに継続して支援を行った。

8.情報の発信等

法人の機関誌「ひめゆり通信」は151号～153号各2500部を発行、各施設の事業内容などを紹介している。また各施設においてもそれぞれ工夫を凝らした機関紙などを発行して情報の発信に努めている。法人のホームページではひめゆり通信を掲載するとともに求人やイベント情報も掲載、また財務情報などの開示も行い、法人運営の透明化を図っている。求人関係については大手の求人サイトであるマイナビと契約して広報に努めるとともに、福祉就職フェアなどにも積極的に参加しアピールに努めた。

理事長は時事通信社発行の厚生福祉巻頭打診欄に寄稿（年間4回）して広く提言活動を行った。

9．地域に対する積極的な貢献活動

奈良県、県社会福祉協議会、県社会福祉法人経営者協議会が合同事業として立ち上げた地域貢献事業「まほろば幸いネット」に参画、リーディング事業としてのレスキュー事業の一員となっている。憩の家の地域支援室は、毎月のサロン活動が定着、発展するとともに、地元自治会とも連携を強化している。

総合支援センターあずさの交流ホールを利用してひめゆり講座を開講。高齢者部門の施設職員が中心となって市民を対象とした啓発講座を展開、介護のノウハウや制度の紹介など積極的な情報発信に努めている。

恒例の滝寺花祭りは4月23日に法人傘下のすべての施設が協力して開催できた。釈尊のお誕生をお祝いする行事であるとともに、多くのボランティアや地域の人々、障害者施設の人々も参加してにぎわった。

愛染寮を本拠とするボーイスカウト生駒第1団は施設の児童は勿論のこと地域の

子供たちの参加も受け入れて活動を展開するとともに参画している職員ともども地域での奉仕活動についても積極的に取り組んでいる。

10.地域社会に対する人的貢献

理事長ほか各施設長や職員は、本務の他に人権擁護委員、自治会役員、県・市社会福祉協議会役員など地域での活動に参加している者が多い。ボーイスカウト活動など地域のボランティア活動に積極的に参加している職員も多く、法人として把握できていない職員の個人的な活動を含めると、社会に対する人的貢献は大きなものがある。

理事長については、奈良県老人福祉施設協議会顧問、近畿老人福祉協議会顧問、奈良県社会福祉法人経営者協議会会長、近畿社会福祉法人経営者協議会会長、全国社会福祉法人経営者協議会常任協議員、奈良県社会福祉協議会副会長として福祉分野の種別協議会の役務を担当するとともに、奈良県社会福祉審議会委員長、奈良県医療審議会委員、生駒市介護保険認定審査会副会長、市介護保険運営協議会委員、市障害者自立支援協議会委員、生駒市社会福祉協議会理事など県、市等の委員会に参画して幅広く福祉の増進啓発に協力した。また、ボーイスカウト奈良県連盟副連盟長として青少年の社会教育活動にも参加している。

11.表彰等

理事長が秋の叙勲において、瑞宝双光章を受賞。11月6日県庁での伝達式、11月8日皇居での拝謁の栄に浴された。2月12日ホテル日航奈良において安井宏一理事を発起人代表に盛大な祝賀会が催された。

延寿施設長井上太氏、いこま乳児院院長辻村万里子氏、極楽坊保育園保育士前田紀美子氏が厚生労働大臣表彰を受賞、他20名が全国レベルの表彰を受賞した。いずれも永年にわたって社会福祉の増進に寄与したことが認められたものである。

またこども支援センターあすなるセンター長大西清司氏、いこま乳児保育園保育士尾植初美氏がそれぞれ35年、他6名が勤続20年以上の法人永年勤続表彰を受けた。